

第3回村岡新駅周辺地区まちづくり協議会

日時：2023年（令和5年）3月17日（金）14時～16時

場所：藤沢市庁舎 本庁舎 7階 7-1会議室

次 第

1. 開会

2. 議事

(1) まちづくりコンセプトブック中間案（ビジョン編）について

3. その他

4. 閉会

まちづくりコンセプトブック

『ビジョン編』とりまとめ（中間案）

<第3回協議会資料>

<目次>

1. まちづくりコンセプトブックについて	1
（1）村岡新駅周辺地区の新たなまちづくり	1
（2）村岡新駅周辺地区まちづくり方針	2
（3）まちづくりコンセプトブックの目的と役割	2
（4）まちづくりコンセプトブックの構成	3
（5）対象範囲	3
（6）まちづくりコンセプトブックの作成について	4
2. 村岡新駅周辺地区のビジョン	5
（1）将来地区像を実現するための創造性のあり方	5
（2）創造性を生み出すためのまちのあり方	5
（3）まちづくりのビジョン	6
VISION 1 村岡のライフスタイル 暮らし「日々の暮らしの中で創造性を育む」	6
VISION 2 村岡のオープンナレッジ しくみ「多彩な個性の出会い・つながりがまちの創造性を発揮する」 ..	8
VISION 3 村岡のタウンスケープ けしき 「自然や歴史、文化に根差して創造性を支える風景を紡ぐ」 ..	10

1.まちづくりコンセプトブックについて

(1) 村岡新駅周辺地区の新たなまちづくり

◇本地区は、藤沢市都市マスタープランにおいて、『6つの都市拠点の1つとして、鎌倉深沢地区と連携・一体となり、先進的な研究開発、生産、業務機能が集積した広域に発信する研究開発拠点の形成を旨とともに、地域サービスの充実を図る』と位置付けています。

◇令和3年(2021年)2月、村岡新駅(仮称)の整備を進めることが決定し、令和4年(2022年)3月にまちづくりに関連する都市計画決定・変更を行い、都市基盤の骨格を計画しました。

<村岡の歴史>

◇村岡は起伏が激しく、坂の多い土地だったので「重なり合う丘(岡)の群れ」からその地名がついたと伝えられています。また、かつては米がよく取れる水田地域で、縄文時代の遺跡も見つかっています。

◇約一千年前の940年(天慶3)、村岡城主・村岡五郎良文(平良文)が、平氏の守護神である御霊(ごりょう)神社を京都から勧請したことから、この地の歴史がはじまります。

◇鎮守府將軍相模守村岡五郎平良文の居城の地であった村岡は村岡郷と呼ばれ、当時関東、東北の政治の中心地でした。その後、鎌倉幕府が成立すると、鎌倉への道沿いにある村岡は、にぎわいを見せました。

◇1590年(天正18)の玉縄開城で武家屋敷が増え、江戸時代には藤沢宿の定助郷(じょうすけごう)を務めるようになります。

◇明治21年の町村制施行により、川名と柄沢を加えて村岡村となり、昭和16年に藤沢市に合併しました。水田を主とする農耕地と深い谷戸のある土地で、山苺、山百合、野草が見られる山林地帯でしたが、時の変遷とともに市街化への要望が高まり、昭和41年3月からおよそ10年の歳月をかけて区画整理事業が行われて丘が削られ、次第に住宅地が広まりました。

◇昭和44年に現在の村岡新駅周辺地区に湘南貨物駅が開設されて、車扱いによる貨物取扱が開始され、昭和60年に廃止されました。

<立地特性>

◇本地区は、本市の東部に位置し、西側は藤沢駅周辺地区に、東側は柏尾川を挟んで鎌倉深沢地区に近接する約7.3haの地区です。

◇本地区の中央にJR東海道本線が通っており、JR藤沢駅からは約2.0km、大船駅から約2.6kmに位置しています。

◇周辺には、神戸製鋼所や湘南ヘルスイノベーションパーク等の産業施設が立地し、戸建住宅地、御霊神社等の地域資源や緑地があります。

◇宮前、弥勒寺などの字名に残るように寺社仏閣が多く、季節になるとあちこちで祭囃子の音が響きます。

◇本地区の南東部には、鎌倉市深沢地区において、湘南モノレール湘南深沢駅周辺の街づくりが進められており、本地区と一体となって、村岡・深沢地区としてヘルスイノベーション最先端拠点の形成が進められていきます。



<新駅の整備>

◇令和3年(2021年)2月、神奈川県、鎌倉市、本市及びJR東日本で『東海道本線大船・藤沢間村岡新駅(仮称)設置に関する覚書』の締結により、新駅整備を進めることとなりました。

<土地区画整理事業の概要>

◇令和4年(2022年)3月に、土地区画整理事業、地区計画(目標・方針のみ)、駅前広場・道路、公園の都市計画決定・変更を行いました。



<本地区の強み・機会/課題>

◇藤沢市の都市拠点である研究開発拠点という位置づけを踏まえ、これからの時代にふさわしいまちづくりのあり方、そして持続的な取り組みが求められています。

◇まちづくりを実現するにあたって、本地区の「強み・機会」及び「課題」を以下のように捉えています。

(「村岡新駅周辺地区まちづくり方針」より)

強み・機会

- 研究開発機能の既存集積のもと、東海道本線新駅を核に「研究開発拠点」の形成
- 人口減少・高齢化社会に適合した「質の高い」まちづくり
- 「ウエルネス」をテーマとしている深沢地区と連携したまちづくり
- 代替性の無い個性・魅力の創出(資源磨き・地域人材)
- 先進的な研究開発や業務機能など、クリエイティブ産業の集積と発信
- 多様なノウハウを有する企業の既存集積とこれらとの連携・活用
- 豊かな緑や歴史文化など特色ある地域資源
- 駅前広場や公園等の公共施設・オープンスペースの新規整備と活用・管理
- 民間活力の積極的活用

課題

- これからの時代にふさわしい「研究開発拠点」の姿とは?
- 交通結節点の形成に向けた周辺との回遊性・歩行快適性の改善
- 「機能集積」と「活力と魅力」の関係づくり
- 技術革新や地域ビジネスを想定した災害に強く事業継続できる都市基盤づくり
- 行政・地域・企業の連携体制
- 投資効果の高い基盤整備(つくって終わりにならない)
- 長期的なまちづくり事業期間も踏まえたまちづくりのプログラムなど

1.まちづくりコンセプトブックについて

(2) 村岡新駅周辺地区まちづくり方針

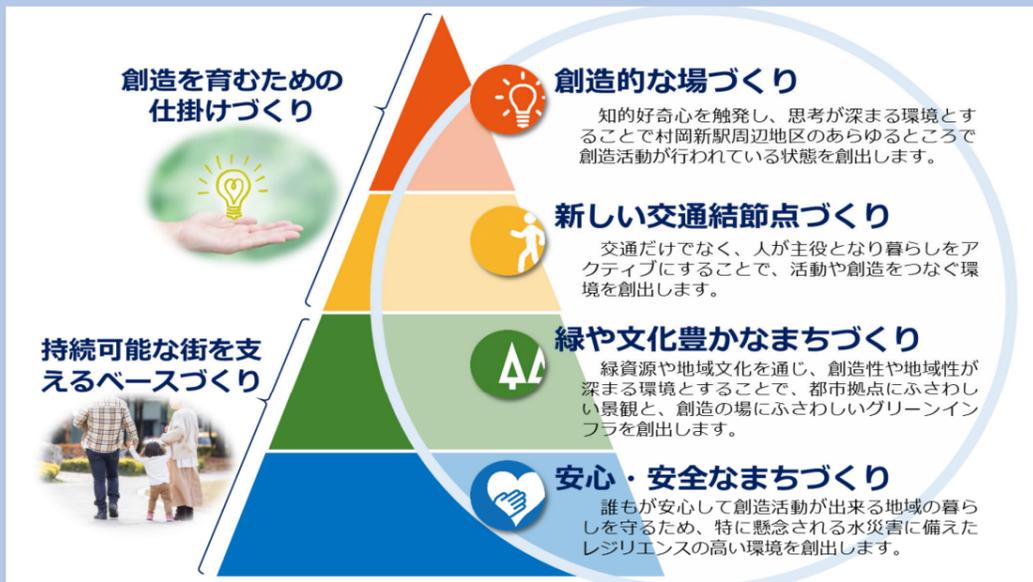
- ◇まちづくりの将来像や方向性など、村岡新駅周辺地区のまちづくりを進める際の「まちのあり方」を示す計画書として、令和3年（2021年）3月に策定しました。
- ◇将来地区像を「尖る創造と広がる創造を生み出す街」と設定し、創造を育み持続可能な街を実現するために設定する4つの重要テーマを定めています。

将来地区像【尖る創造と広がる創造を生み出す街】

村岡新駅を中心に、知的人材の集積を活かし世界に誇る「尖る創造」と地域や市民と共に創り出す「広がる創造」が相互に利用することで好循環を生み出す、新たな研究開発拠点を形成します。

創造を育み持続可能な街を実現するために設定する4つの重要テーマ

まちの基本となる基盤（安心・安全、地域性を生かした緑豊かな環境形成の上に、次世代にふさわしい交通結節点の形成とクリエイティブ人材や交流人口を生み育む創造的な場づくりを進めることで、「尖る創造」と「広がる創造」を実現します。



まちづくりに伴う全市に対する効果

市全体の活力創出

- 新たな研究開発拠点の形成及び市内都市拠点のバランスよい配置とともに、市内の円滑な移動の実現による、市全体の活力創出等へ
- 最先端の研究に関わる研究者・企業等の集積や交流人口等の増加
 - 6つの都市拠点の分担・連携による活性化や、働く場づくり・地域の雇用等、市全体での活性化
 - 将来の藤沢を支える人材・環境づくり など

市民が楽しく豊かに暮らし続けられる

- 新たな暮らし方の創造や都市サービスの享受等により、市民の暮らしやすさの充実・更新へ
- 交流機会や知的好奇心の集まりと、それらを支える快適な移動による、健康寿命の延伸
 - 先導的な取り組みや都市サービスによる新たな暮らし方の実現
 - 持続可能な都市の構築
 - 地域資源に新たな創造・価値観が加わることによる地域の価値や愛着の向上 など

安定した行政運営

- 市全体の活力創出に伴う持続的な税収増が、資源配分を可能とし、安定的な行政運営へ
- 次代に向けた投資の継続
 - 市民サービスの維持・充実
 - 「暮らし続けたい」「働きたい」と選ばれる都市の付加価値やブランド力の向上 など

(3) まちづくりコンセプトブックの目的と役割

◇将来地区像「尖る創造と広がる創造を生み出す街」の実現に向けて

村岡新駅周辺地区では、知的人材の集積を活かし世界に誇る「尖る創造」と地域や市民と共に創り出す「広がる創造」が相互に作用することで好循環を生み出す、新たな研究開発拠点を目指しています。様々な人が活動し、関わり合いながら「創造を生み出す街」を実現していくために最も重要なのは、この新たなまちのあり方について、市民・地権者・事業者など、まちに関係する人々の共感を得ることです。

◇まちづくりの新たな進め方

従来の進め方では、ハード整備を中心とした事業計画が先行して進められてきました。しかし、このまちづくりでは、“村岡らしさ”をより高める発想・提案を計画に取り入れ、実現につながるように、新たな方法で進めていきます。

そのため、「まちづくりコンセプトブック」を作成し、その中で、まちづくりにおける大事にしたいことなどを整理しました。そして、事業計画の前の段階から、これをまちづくりの様々な関係者と「共有」し「共感」を生み出していく活動を進めていき、具体的なまちの計画・整備や成長・発展の実現に向けての「共創」を促していきます。

◇「まちづくり方針」との関係

まちづくりコンセプトブックは、「まちづくり方針」の将来地区像と4つの重点テーマの実現に向けて、大事にしたいことなどを明確化し、様々な関係者の「共創」を促すためのメッセージです。

なお、まちづくりコンセプトブック及びまちづくり方針については、社会状況の変化等を踏まえて、必要に応じて見直しを行います。

【まちづくり方針】 (まちのあり方を示す計画書)

将来地区像 尖る創造と広がる創造を生み出す街

4つの重要テーマ



創造



交通



緑/文化



安心安全

【コンセプトブック】

「まちづくり方針」の実現に向けて、大事にしたいことなどを明確化し、

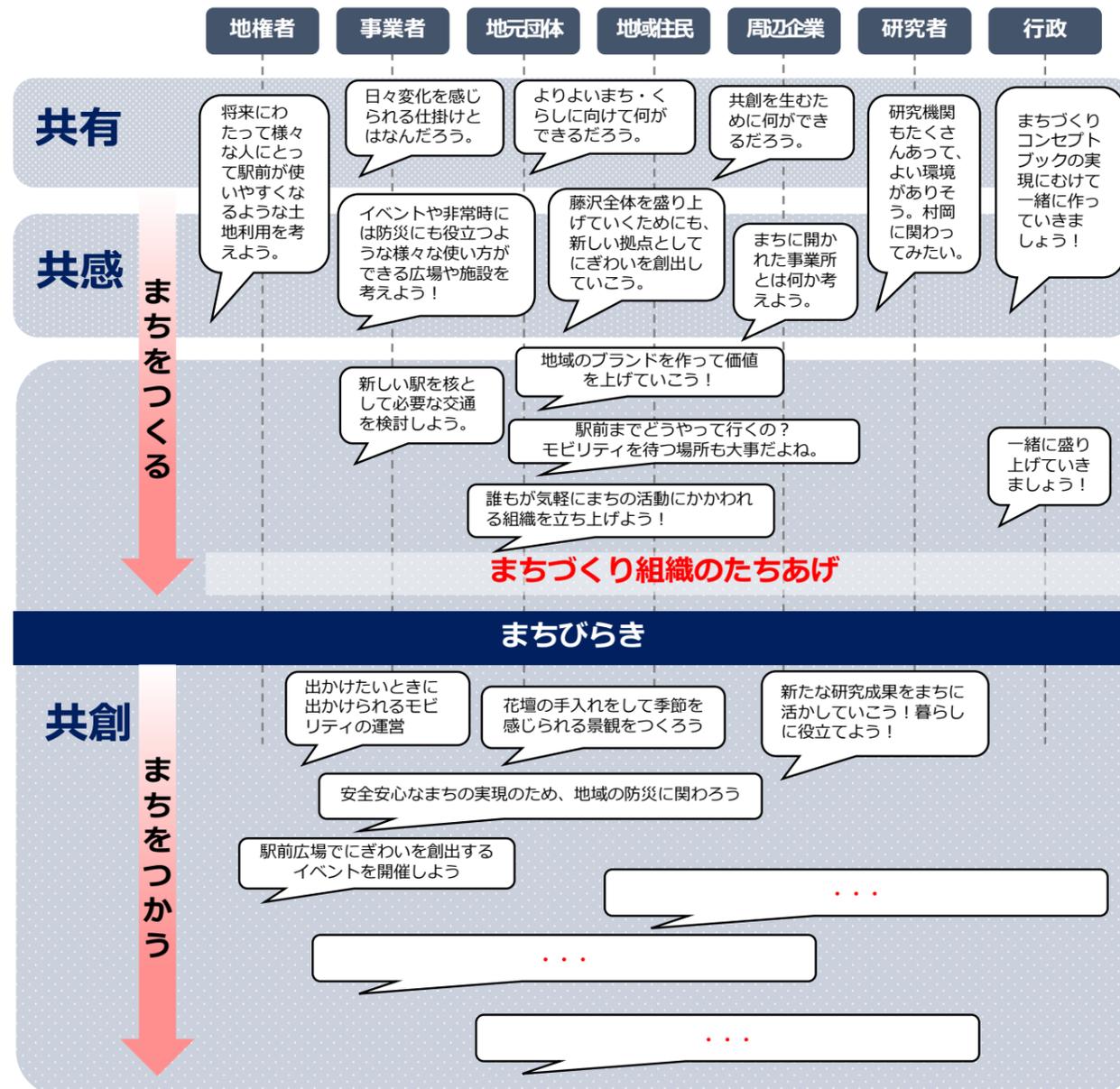
様々な関係者の共創を促すためのメッセージ

1.まちづくりコンセプトブックについて

◇「まちづくりコンセプトブック」の使い方

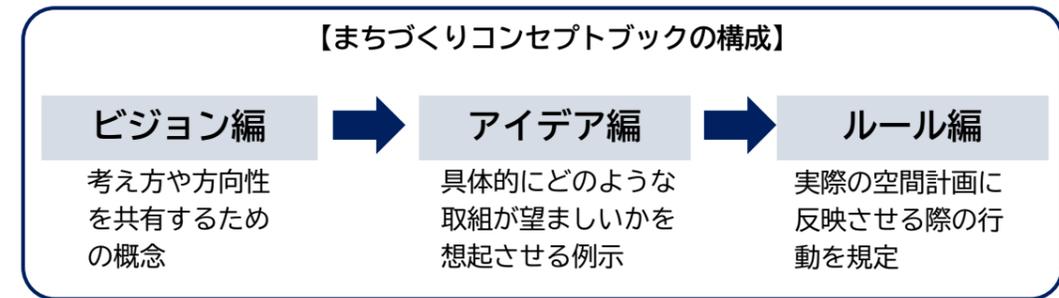
本コンセプトブックを、様々な関係者と「共有」し、「共感」することで、同じビジョンを持ちながら、まちの活動に関わり、よりよいまち・暮らしを共創していきます。

共有	「まちづくりコンセプトブック」におけるまちのあり方や将来像を関係者みんなでイメージし、内容を理解すること。
共感	「まちづくりコンセプトブック」で描いているビジョンや将来像に対し、「実現を目指したい」と感じるとともに、「自分事として関わってみたい」と思えること。
共創	「まちづくりコンセプトブック」をベースに、住民や事業者・企業・学校・研究者等、村岡に関わる人や団体・コミュニティが、将来像の実現に向けて、共に考え、共に取り組むことで、まちに新たな価値や魅力を生み出し、守り育てていくこと。



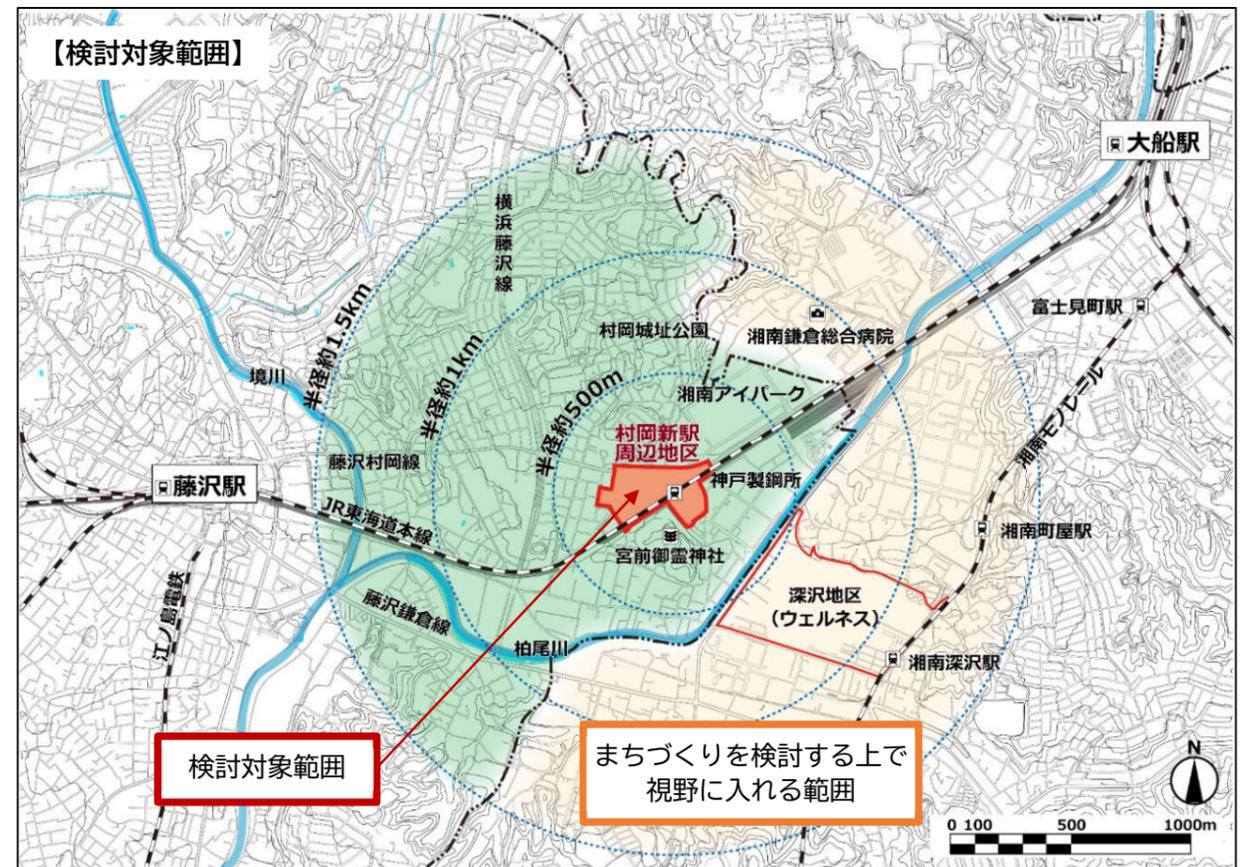
(4) まちづくりコンセプトブックの構成

◇考え方や方向性を共有するために概念として整理した「ビジョン編」、具体的にどのような取組が望ましいかを想起させる「アイデア編」、土地地区画整理事業地内において実際に空間計画に反映させる際の行動を規定する「ルール編」の3部で構成します。



(5) 対象範囲

◇まちづくりコンセプトブックは、村岡新駅周辺地区を中心に、市内外の半径 1.5km 圏程度を視野に入れ、当該地区のみならず、周辺との連携や波及効果を視野に入れて検討するものとします。



(6) まちづくりコンセプトブックの作成について

◇『ビジョン編』『アイデア編』『ルール編』を順次作成した上で、全体を見直し、コンセプトブックをとりまとめる予定です。

【令和4年度】

『ビジョン編』とりまとめ（中間案）



【令和5年度】

『アイデア編』及び『ルール編』を検討・作成



コンセプトブックのとりまとめ

- ・『アイデア編』『ルール編』の検討から見出された大事な要素を『ビジョン編』にも反映し、全体の記載内容を調整
- ・『ビジョン編』を印象的・魅力的に表現するために、伝わりやすさ・見やすさの観点からブラッシュアップ（イラストの挿入、大事なことが強調されているか、文字等の情報量が多すぎないか、等）

2. 村岡新駅周辺地区のビジョン

「村岡新駅周辺地区まちづくり方針」で掲げる将来地区像「尖る創造と広がる創造を生み出す街」を実現する際に、ベースとなる創造性のあり方と、将来地区像を実現するためのまちのあり方について、次のように考えています。

(1) 将来地区像を実現するための創造性のあり方

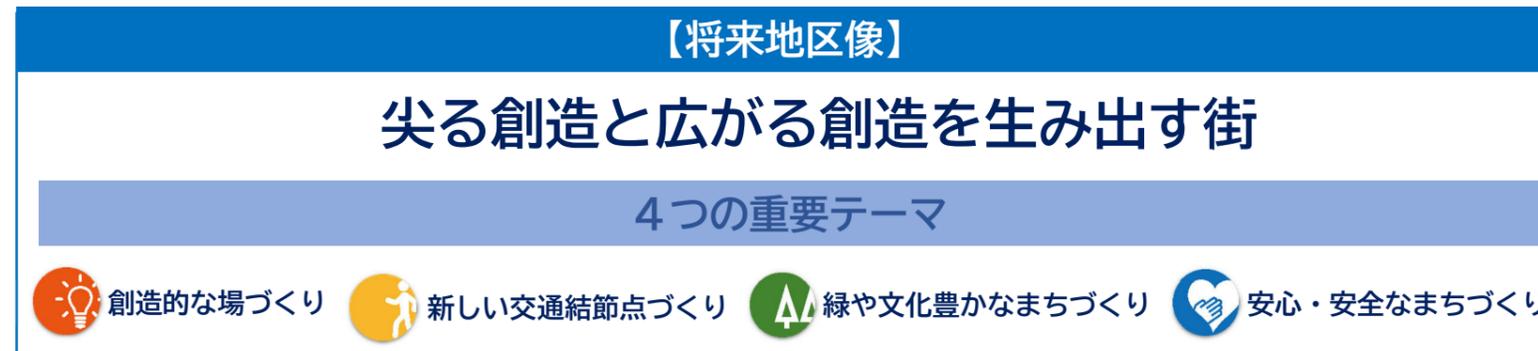
人の創造性を高めていくには、まずひとりひとりが備えている創造性である個の感性を磨くこと、そして、創造性を膨らませて育むこと、そして、他者との共有・共創を通じて、創造性が広がることが必要と考えています。

村岡新駅周辺地区では、それぞれの創造性を高めていくことを目指し、自然に個の感性が磨かれるような環境を育て、磨かれた感性が、村岡の時間（とき）の中で感性として膨らんでいき、村岡が大切に育んできた風土や繋がりの中で「人」「場」「コト」との出会いを通じて、さらに創造性が広がっていくことを目指しています。

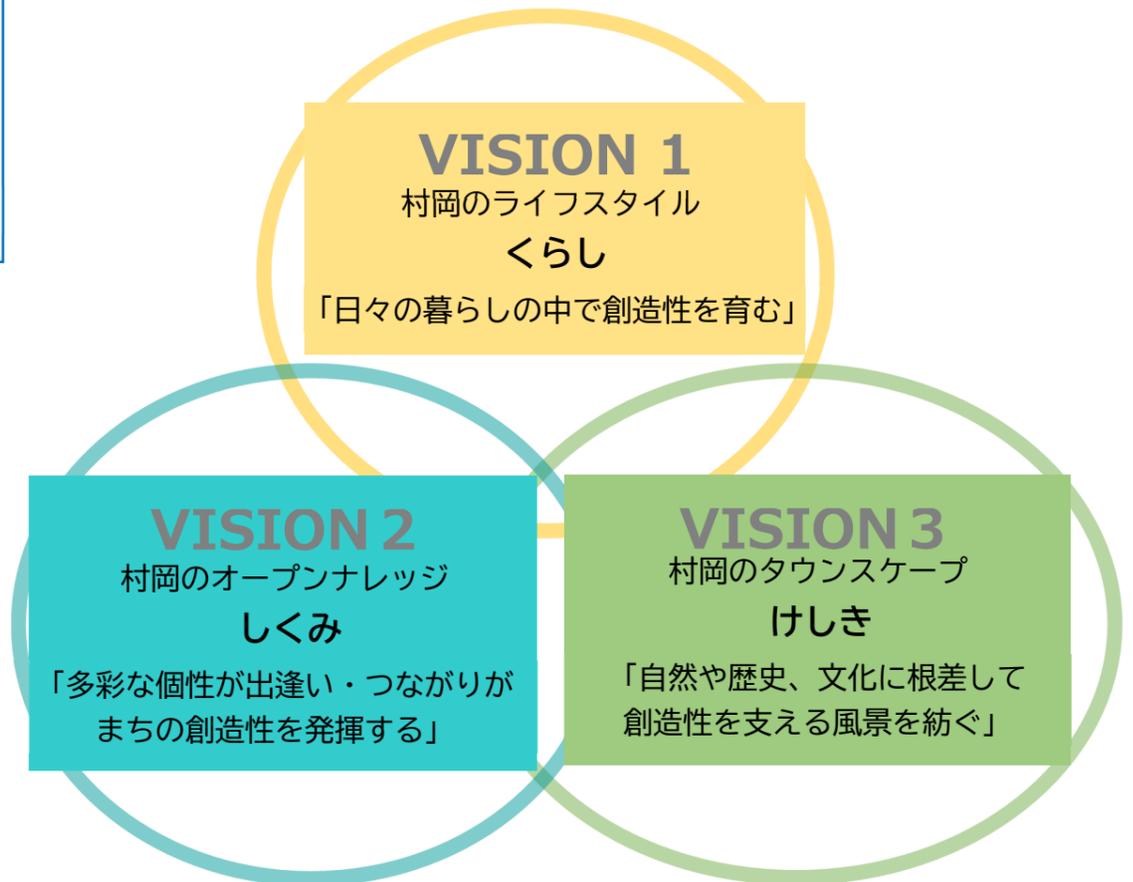
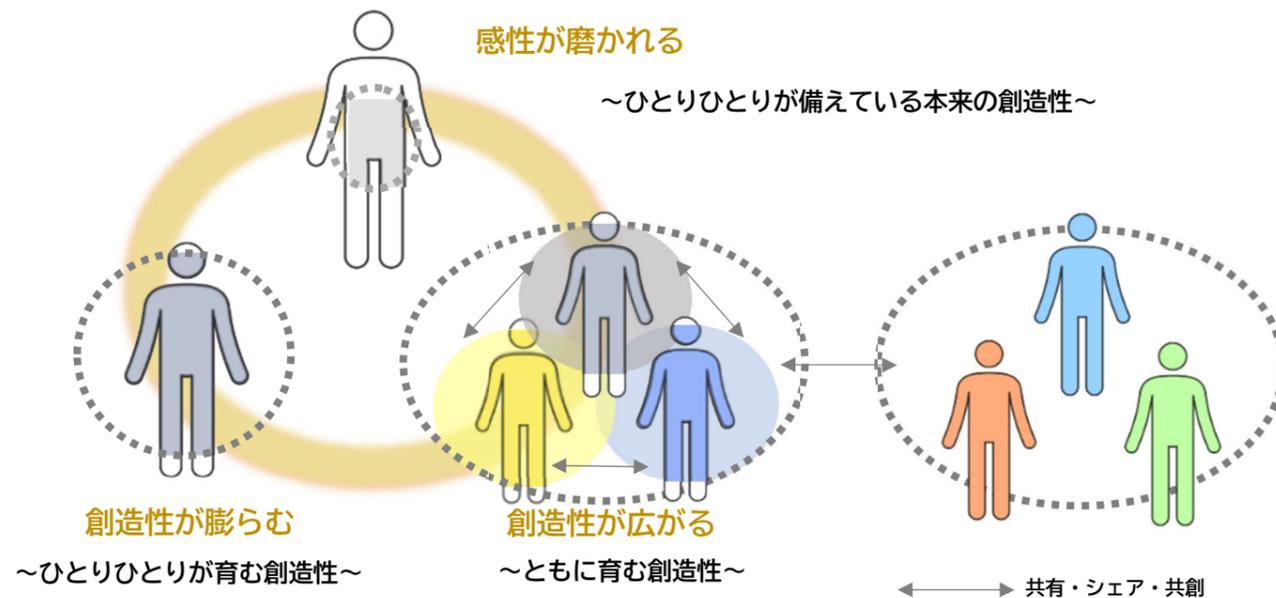
(2) 創造性を生み出すためのまちのあり方

「尖る創造と広がる創造を生み出す街」の実現に向けて、村岡が目指す創造性を育むためのまちのあり方として、様々な人が日々の暮らしの中で創造性を育む暮らし、そして暮らしを支えるしくみとけしきに分けて「3つのビジョン」として示しています。

【3つのビジョン】



【創造性のあり方】



VISION 1

村岡のライフスタイル 暮らし

村岡の日々の暮らしが創造性を刺激し、育むきっかけとなるような「目指す暮らし」と、「実現するために大事にすること」を示します。

目指す「暮らし」のあり方

「日々の暮らしの中で創造性を育む」

働く人や、子どもから高齢者まであらゆる人が入れ代わり往来するまちの中で、個の感性が、四季の移り変わりや、その時々の方場の使い方など、常に様々な変化を伴う日々の暮らしによって自然と磨かれ、まちのいたるところで遭遇する「発見」や「気づき」によって創造性として膨らみ、新たな出逢いや共創する場を通じて、さらに創造性がまちの内外に向かって広がっていくような暮らしを目指します。

村岡のいたるところで感性や創造性を刺激する場・機会に遭遇すること

① 日常を楽しむ

創造性を生み出すための礎となる個の感性が自然と磨かれるような、常に小さなきっかけや変化を楽しむ環境をつくる。

例えば・・・

- ・ 季節や自然の移ろいを感じたり、思考を遊ばせられる時間が過ごせる
- ・ 散歩や通勤・通学の途中で、自然と挨拶や交流が生まれる
- ・ じっくり考えたり気分転換するために行く、自分だけのお気に入りの場所がある
- ・ 村岡が育てている文化、穏やかさが生むまちの落ち着きが、まちの居心地となる
- ・ 様々な過ごしている姿を見たり、触れ、嬉しくなったり好奇心が刺激される 等

② 発見や気づきが身近にある

磨かれた感性が個の創造性として膨らむ「発見」や「気づき」が生まれるような、多様な情報にアクセスできる場所・機会をつくる。

例えば・・・

- ・ 先進的な研究成果に触れたり、新しい技術を体験できる
- ・ 屋外にある活動・情報から、自然と様々な「気になる」が生まれ、深めたいくなる
- ・ 自分に合った移動環境を使って活動を広げ、楽しみや交流に出逢える 等

③ 出逢いの場・機会がある

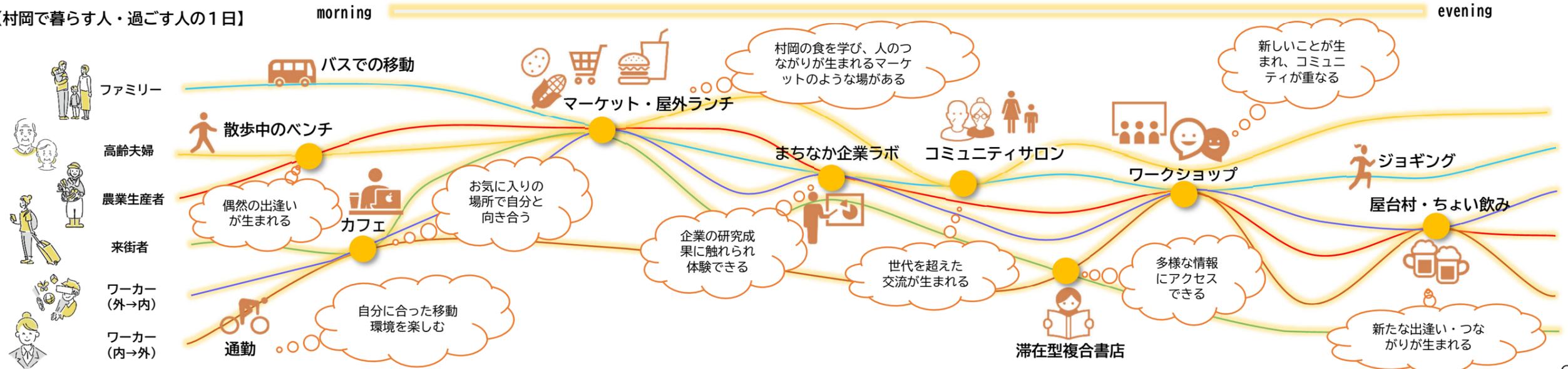
膨らんだ創造性がさらに広がっていくように、村岡が持つ穏やかな心を持って出逢い・つながり・共創する場所・機会をつくる。

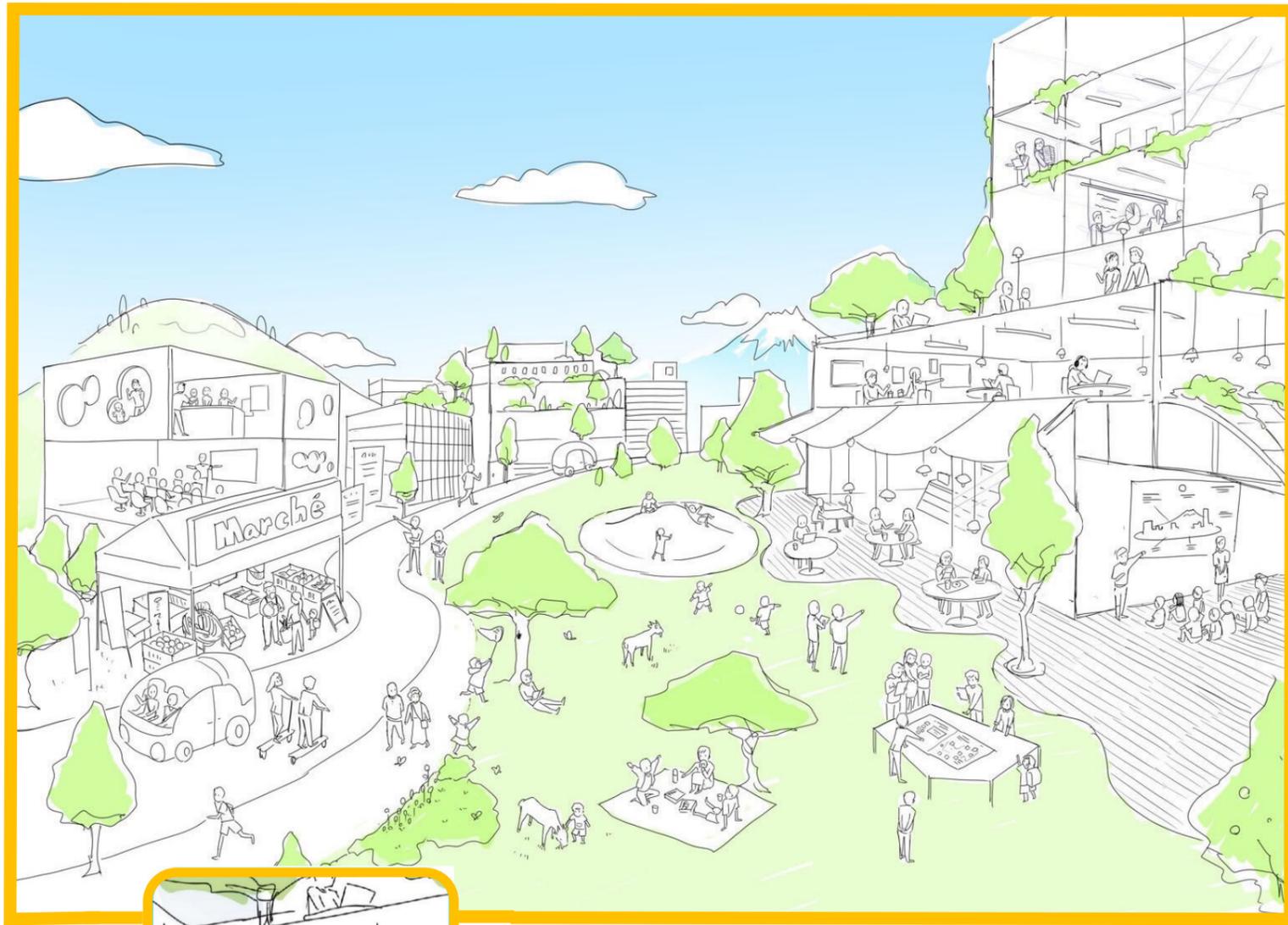
例えば・・・

- ・ 様々な人やコミュニティが重なる場やきっかけを通じて、新しいことが始まる
- ・ まちや暮らしの課題や期待が見える化しながら、様々な知恵・技術を繋ぐ
- ・ 子どもから研究者・専門家まで、新たな出逢いにより、次の挑戦が始める 等

大事にすること

【村岡で暮らす人・過ごす人の1日】





▶季節移ろいの中でランニングや散歩を楽しむ。

個の感性を磨く機会・場

村岡の豊かな自然を肌で感じながら佇んだり、お気に入りの場所でじっくり自分と向き合ったり、知的好奇心が触発されるような変化のあるイベントがたくさんあることで、創造性の礎となる個の感性を磨く機会・場がある。



▶地元の食材について学べるマーケット。



▶カフェでの偶然の出会い。

偶発的な出会い・つながれる可能性がある場

まちのことを考えたり、企業の新しい技術に触れ体験できる場がいたるところで開催され、それらに参加することで新たな出会いやつながりが生まれる可能性がある場がある。



▶自分の時間にあった快適な移動環境。待つことを含めて移動を楽しむ。

▶異種・多業種の人々との交流や共創が生まれるワークショップ。



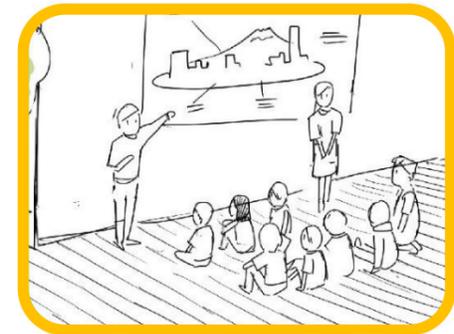
共創できる場

より良いまちや暮らしについて、みんなが自分事として考え共創できる場がある。

気づきや発見が生まれ、多様な情報にアクセスできる機会・場

自分のスピードと時間にあった移動環境が選択でき、あらゆる場所にアクセスすることができる。また、様々なイベントや企業ラボ、図書館等で多様な情報にアクセスすることができる機会・場がある。

▶新しい研究や技術に触れられる企業ラボ。



VISION 2

村岡のオープンナレッジ しくみ

まちが創造性を発揮するために「目指すしくみ」と、実現するために「大事にすること」を示します。

目指す「しくみ」のあり方

「多彩な個性の出会い・つながりが まちの創造性を発揮する」

人々の暮らしやまち・社会をより良くしていくために、村岡新駅を中心にして、村岡のまち、国内外を含めた様々なところで、地域住民、ワーカー（企業・研究者等）、来街者など様々な人材が持つ「個性」（知識・技術・技能等）をまちに開き、出会い、つながる仕組みが機能することによって、新たな創造が生まれ、育まれていき、まちとしての創造性が発揮される地域社会を目指します。

自分を楽しみ、共創に溢れた関係性があること

← 個

社会 →

①個性を開き、つながる場・機会がある

村岡に住む人、勤める人、学ぶ人など、それぞれが持っている個性（知識や技術、技能）を『見える化』することで、村岡に関係する人々が出会い、情報を共有したり、連携する場・機会をつくる。

例えば・・・

- ・ 地域住民や研究者のもつ知識や技術等の「創造のタネ」になる情報として視覚化する
- ・ 「研究者⇄研究者」「研究者⇄住民」「来街者⇄住民」等の異なるコミュニティが交流できる機会を創出する

②世界に、未来に挑む環境がある

村岡周辺で活動する研究者をはじめ、国内外の研究・開発人材が、相互に触発し合い、イノベーション・創造を生み出せるように、未来に挑戦していく環境をつくる。

また、村岡で世界に発信できる研究者・技術者を育成するため、企業や研究機関、地域の学校との連携・協力により実現する。

例えば・・・

- ・ 企業の研究開発部門・ベンチャー等が集積し、共創する
- ・ 国内外の研究者、企業、投資家等とデジタルでつながる
- ・ 企業・研究機関と学校が連携して、科学技術教育の仕組みをつくる
- ・ 市内や県内の子ども達が最先端の技術や研究に触れ、知る場をつくる 等

③新しい「今」を共創する

知的人材の集積を活かして、地域住民や来街者等の暮らしや過ごし方がより快適になり、まちの魅力・価値の向上につながる仕組みをつくる。

先進的な知識・技術と地域住民の視点を融合させることにより、生活利便性の向上、安全・安心（防災・防犯、健康・医療等）、環境、交通など多様な分野において、新しい「今」を共創する。

例えば・・・

- ・ 健康、医療、環境、防災などの多くの分野で新しい仕組みや最先端技術を導入する
- ・ 地域住民等が企業の製品の改善や、新たな取組の実証実験に協力する 等

④持続的で魅力的な地域社会を追求する

知的人材の集積を活かした「尖る創造」と地域や市民と共に創り出す「広がる創造」の相互作用により、創造活動の好循環を生み出すような、地域住民、研究者、企業、大学、行政等の連携・協働による創造性に溢れたコミュニティを形成する。

例えば・・・

- ・ 多様な主体の共創による取組について検討・実践の場や機会をつくる
- ・ 将来を見据えたまちの成長を支える運営組織となる
- ・ 持続的で魅力的な地域社会を追求していくプラットフォームとなる 等

大事にすること

VISION 3

村岡のタウンスケープ

けしき

まちが創造性を発揮するために「目指すけしき」と、実現するために「大事にすること」を示します。

目指す「けしき」のあり方

「自然や歴史、文化に根差して創造性を支える風景を紡ぐ」

村岡の地名の由来と言われている「重なり合う丘の群れ」のとおり、起伏がある地形の中で、育んできた文化、風土、そして住民の地域性等の延長線上に、新たな街を育むことを目指し、持続可能性やレジリエンスの高い環境をベースに、五感や身体性に働きかけたり、小さな変化や様々な出会い、何かをしたくなる衝動等を生み出す空間がシームレスに繋がり、創造性も含めて未来へと紡ぐ姿として「けしき」を育てていくことを目指します。

- 視覚だけでなく、身体性が生み出すまちの構造 - 広場と小径、いくつもの丘、緑陰
- 形式的な境界がなく、シームレスで一体的な環境 - 公民・民衆の境界／地区と周囲の境界／北と南の境界／建物の内と外／過去と現在、未来の境界をなくす
- 変化を受け入れ、手を加えられる柔らかい空間 - 可変土地利用、積極的暫定、余白、生態系

新たな街を「村岡」を育んできた丘の群れの一部として育み、未来へ繋ぐ

①風景を堪能できる環境がある

まちの中の人々の活動、草花、新しいまち並み、まちの香り、村岡が育んできた文化と歴史、遠くに臨む富士山や丘陵など、変わらない、或いは刻々と変化する様々な風景が感性や五感を刺激する。

例えば・・・

- 人々の活動が見える・見せることを意識した空間
- 地区を取り囲む地形や山並み等と、丘の繋がりを意識した風景づくり
- 丘が連なる様子や、まち並みが見えるビューポイントの確保 等

②パブリックスペースが図となる

広場（Nord）、小径（Path）、余白（Margin）など、地区全体が思考を巡らせたり、気分転換したり、お気に入りとなる創造のフィールドマップを構成する。

例えば・・・

- 広場や囲みの空間を設けてコミュニティが生まれやすい空間づくり
- 緑陰やすれ違いに挨拶したくなる小径等、微地形や美しい連続性等による歩きたくなるネットワークづくり
- ニーズや時代に合わせて場を応用・成長・進化していける、計画的な土地・建物利用や余白 等

③隔たりや障壁の無い環境がある

人々の自由な活動の根底となる安心・安全な環境を創出した上で、移動や活動の自由度が高く、人々が出会いやすい、身体性を大事にした、シームレスな環境をつくる。

例えば・・・

- 空間の物理的・心理的・制度的な境界の透明化
- 地区周辺も含めて安心・安全に暮らすための災害への強靱性・事業継続性の向上
- 一日、季節、日常・非日常等、様々な時間軸を見据えた屋内外における可変性や、社会や需要の変化を取り込める柔軟性 等

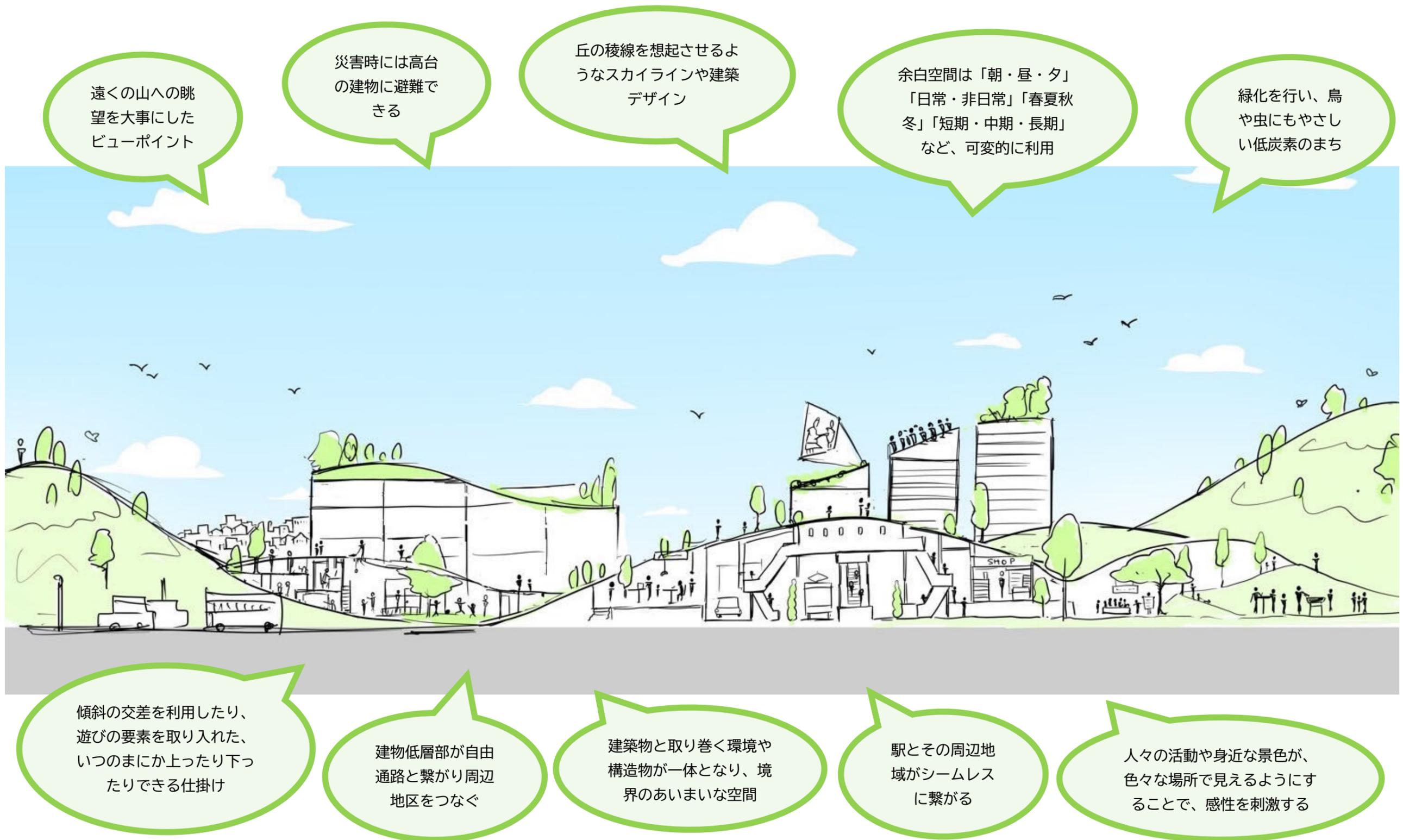
④未来に向けたやさしさに溢れた環境がある

村岡を育んできた自然環境を、これからも大切に育てていくことで、自然と共に暮らしてきた村岡の生活環境を未来にもつなげていく。

例えば・・・

- 村岡が持つ地形、地域文化等、風土の魅力の延長線上にある空間や風景の形成
- 村岡を取り巻く地球環境も見据えた、低炭素や循環型社会などの環境負荷低減等、持続可能な環境づくり
- 動物や鳥、虫、植物など地域に根付く生物多様性や風景の維持・活用 等

大事にするポイント



遠くの山への眺望を大事にしたビューポイント

災害時には高台の建物に避難できる

丘の稜線を想起させるようなスカイラインや建築デザイン

余白空間は「朝・昼・夕」「日常・非日常」「春夏秋冬」「短期・中期・長期」など、可変的に利用

緑化を行い、鳥や虫にもやさしい低炭素のまち

傾斜の交差を利用したり、遊びの要素を取り入れた、いつのまにか上ったり下ったりできる仕掛け

建物低層部が自由通路と繋がり周辺地区をつなぐ

建築物と取り巻く環境や構造物が一体となり、境界のあいまいな空間

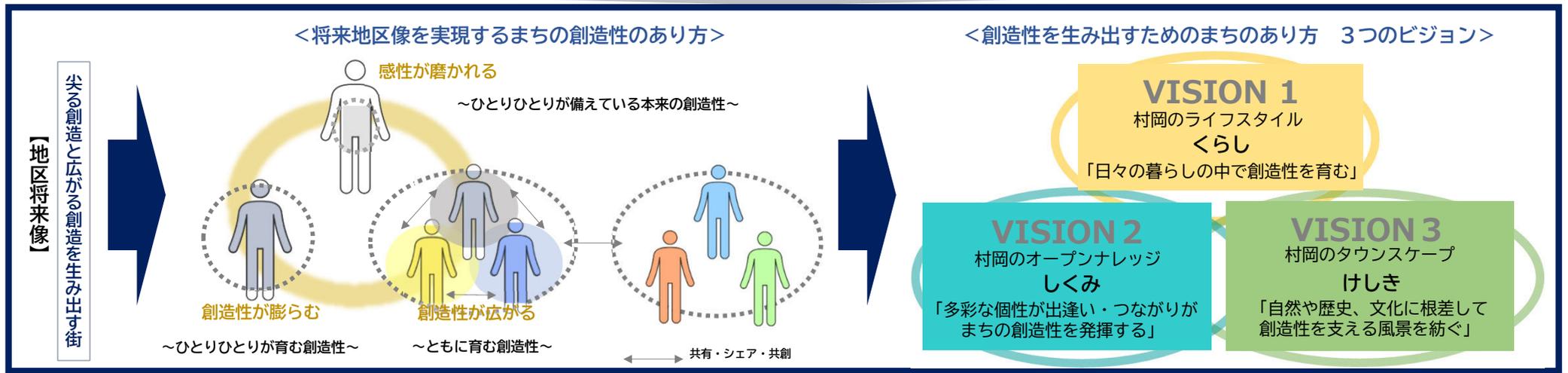
駅とその周辺地域がシームレスに繋がる

人々の活動や身近な景色が、色々な場所で見えるようにすることで、感性を刺激する

■協議会等のご意見と「将来地区像を実現するための創造性のあり方」「創造性を生み出すためのまちのあり方」について

●：ご意見 (協)：まちづくり協議会 (有)有識者会議

- 駅周辺地区のまちづくりによってさらに**周りの人がより豊か**になっていくことが必要。(協)
- 新駅が移動の手段としてだけでなく、**周辺の環境や新しいコミュニティの作り方に貢献できるか**、外から来る**人との繋がりをどう生まれさせ**るかが重要。(協)
- **コミュニティや知識・技術が混ざり合**ってまちにしみ出すことが、広がる創造だと思ふ。(協)
- **多様な知識・技能・経験やこだわり等を持った人同士が出会うことに着目**してはどうか。**創造的な場づくりを中心**において尖らせた方が良いのでは。(有)
- 自分が持っている専門知識・得意分野などを**シェア**できるような場があるだけでも、**創造的に自分を変えたり、生活を変えていく**ことが、きっと起こるのだろう。(有)
- 創造性を育むためには、まずは1人で考える時間・空間が必要であり、次のステップとして、専門に関わらず多様なこだわりを持った人達と交流したり、一緒に何かするなどがあり、これらのことが、この**街に開かれた状態でどれだけ起きるか**だと思う。(有)
- 開かれた場で、**偶然の出逢い**から、**色々なものが生まれていく**というのは、簡単ではなく街として仕掛けや計画で少しそこを応援することが必要になる。(有)
- 創造的な出逢いにより**新しいものが生まれ育まれ動いていく**まち、場である、というように流れや動きが込められるとよい。**変化が起きていく**というのがここでいう創造的だと思う。(有)



- まちづくりの中で地域課題が解決できるとよい。(協)
- 海外の方が来るようなグローバルの視点も必要。(協)
- 村岡から未来の科学者が生まれる環境になるとよい。(協)
- 防災・減災の面で企業がどう貢献できるか考えたい。(協)
- 知り合いから声を掛けてもらって参加しようとなるので、**繋がりを作って**いけるようなコンセプトになってほしい。(協)
- 新駅や住民がどう繋がっていけるか表現すれば活力・賑わいのある街になっていくのではないかと。(協)
- 企業が持つ技術、人材が持つ技能など地域全体の個々の特技を活かして、**創造性を生み出す街**になるとよい。(有)
- 「ここはどうする？」となった時に「村岡でミーティングしよう」となるような場所に。(有)
- 世界にネットワークを持つコワーキングスペース、研究者のシェアハウス等がある、広場や公園に行けば面白い人が議論して、という場所になれば村岡に行こうと思うのでは。(有)
- どこで何をやってるかワクワクするタネの可視化や、色々な人(住んでる人とか)の「知」が交ざることによって創造が生まれるので、人材の「知」を可視化する方法を考えたい。(有)

- 村岡は高齢者が増え、起伏のある地形なので、地域を回るバスや次世代自動車など交通が便利になるとよい。(協)
- 村岡は寺社仏閣、祭りを中心に村が発展し、人の繋がりが強く、非常に穏やかな人が多い地域となっている。(協)
- 地域住民と企業、来街者が一体となって魅力が出る街が必要で、それには拠点づくりが大事。(協)
- 開かれた場所での偶然の出会い、人にシェアできるような場が、**創造的に自分を変えたり生活を変えていく**ことを起こすだろう。(有)
- これからは「都市的な暮らし」よりも「自然的な暮らし」を重視する人が増える。(有)
- 毎日異なる体験や小さな変化があることが、街の中での暮らしをより**創造的・魅力的**にするのではないかと。(有)
- 様々な情報を得られるという意味でライブラリー、街で試行錯誤や実験を行うラボも創造につながる。(有)
- 歩く心地よさ、住民や来街者の移動手段も大事。(有)

- 駅南北をどう繋ぐか、回遊性の高いシームレスな繋がりをどうつくるかが重要。(協)
- 時代に応じた景観、街の価値として、環境や建物のボリューム(高さ、容積率・建ぺい率)は重要。(協)
- シンボルロード、神社等の資源を取り入れることが重要。(協)
- 多様な性質・特徴を持つヒューマンスケール・スモールスケールの空間が連鎖することが街の奥行き感につながる。(有)
- 佇んだり、回遊するためには滞留空間(たまり)、小径のつくり方が重要。(有)
- 「重なり合う丘の群れ」という村岡の由来を活かして、昔の地形を思いつつ、丘(のイメージ)を創ってはどうか。(有)
- 歴史文化の先に人が主役であることがデザインの話に入ってほしい。また、この土地は特に風土が大事で、鉄道がインフラとして新しい景色・景観をつくる要素となる。(有)
- 景色であれば自然や風土、自然歴史文化も包含する。(有)